

---

# だから私は魔法使いになりたい

神城 瞬夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

だから私は魔法使いになりたい

### 【Nコード】

N4462D

### 【作者名】

神城 瞬夜

### 【あらすじ】

少女は言う。この世界はとてつもなく残酷で、誰も困っている人を助けてはくれない、と。絶望に満ちた声で言う。だから助けなんて求めてない、と。だから魔法使いになりたい、と。なんてかっこよさげなことかいてますがSSなので。

## （前書き）

とてつもなくつたない作品です。原稿用紙換算で10枚に足りないくらいだと思います。

私は魔法使いになりたかった。

現実味がない夢だということはわかっている。なれるはずがないこともわかってる。それでも、私はそう願わずにはいられない。

それしか、誰かを救う方法はないのだから。

いつも、いつだってそう。誰も、助けなんて来ない。

家族が事故で死んだとき。親類のみんなは私を引き取りたくない、  
といていた。

私自身が事故にあったとき。通りかかる人はみんな私を見るけど、  
誰も助けてくれなかった。

ここは、そういう世界なのだから。

誰も人を助けることなんてできない。そんな余裕なんてない。

だから魔法使いに私はなりたい。こんな私を救うために。

友達が目の前で不良たちに殴られていたとき。私には助ける勇気  
なんてなくて。助けるための力もなくて。私は、一目散に逃げてし  
まった。

だから、魔法使いになりたい。誰かを助けるために。

でも、誰かを救うために私を助けてと、そんな祈りをしていても、  
結局のところ私を助けてくれる魔法使いなんて現れない。

現れないから、私も誰かを救うことができない。

結局は、そんな世の中。

私に向かって、不良がほえている。ここは裏路地。誰も助けにな

んて来ない。裏路地じゃなくても、きつと誰だつて助けてはくれない。

だから、私はあきらめた。助けて、ともやめて、ともいわない。景色がゆれた。吹っ飛ばされた私は、地べたに這い蹲ることになる。そして、そんな私を不良たちは鋭い濁った目でにらんでくる。

救いはこない。そんなことはわかっている。だから、魔法使いになりたい。救いがなくても、自分の力で道を作り出せるように。

倒れている私を、不良のひとりが踏みつけた。もういい。殺すなら殺して。こんな世の中にはうんざり。

それなのに

不良たちの向こうがわに、まるで私を助けようとするみたいに、一人の少年が立っていた。

一人の少年が、不良たちをにらんでいた。見るからに気弱そうで、そして弱そうな少年だった。すらつとした体。背も小さい。服はきれいだから、たぶんまともな家庭で育ったのだろう。

きつと、私を助ける力なんてない。だから。私は少年に言おうと思った。力もないのに、そんなことはしなくていい、と。

それなのに

やめろよ、と。少年は力強く叫んだ。力がなければ誰も助けられない時代で、おそらく力もないだろうその少年は、それでも。

私を助ける、そのためだけに。

少年は私のために、慣れていないであろうケンカを不良たちに吹

っつけた。なぜそんなことをするのか、私にはわからない。勝てるわけがない。不良たちは一人の少年をたこ殴りにする。

そう、力なんてないのだから仕方がない。

やがて、不良たちは少年を殴ることで満足したのか、どこかへ去っていった。

私はよろよろと立ち上がり、倒れている少年を見下ろす。

あざ笑ってやろうかと思った。何でそんな馬鹿なことをしたんだ、と。

知らないうちに私はつぶやいていたのだろう。少年がそつと顔を上げて、小さく答えた。

そうするしか、助ける方法がないからだよ……、と。自分を犠牲にしないと君を助けられないから、と。

力がないのに、そんなことをしようとするのが馬鹿なの。私は、助けてもらった相手にそうつぶやく。

そんな風に言う私に向かって、少年は弱弱しく、しかし心をこめて言ってくれた。

それでも、君は助かっただろ？　だったら、力なんてなくてもいいじゃないか　少年のその言葉はまるできれいごとで、力があつたほうがいいにきまっているのに、けれど力がないからとあきらめたりせずに、自分のできるだけのことをして私を救おうとした。なんだか、とても嬉しい言葉だった。

たとえ馬鹿でも、無謀でも、自分のために戦ってくれた。なんだか、それがとても嬉しい。

この世界では、力がなければ何もできなくて、助けたいと願っても力なんてなくて。救いのこないまま、絶望へと突き落としておいて。それなのに、

声に出せなかった『助けて』という言葉を聴きつけて、力もないのにこの少年は私を助けようとして。

魔法使いでもなければ、できないと思っていたけれど、

この少年は、たとえ力なんてなくても、私にとっては救いの魔法使いで。それならば、力なんてなくても、魔法なんて使えなくても、

誰かの魔法使いには、なれるかもしれない。

なりたい、じゃない。だから、でもない。

私は、誰かのための魔法使いになろうと思う。この少年のように。

（後書き）

よろしければ、読んだ感想をお聞かせください。

http://indexharuhi.blog20.fc2.  
com/HPです。応援よろしく願います



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4462d/>

---

だから私は魔法使いになりたい

2011年1月13日07時23分発行